

路線測量設計課程Ⅰ、Ⅱコースに参加して

株式会社ドボク管理 布施博輔

平成22年4月13日～16日に開催された路線測量設計課程コースⅠ、6月22日～25日に開催された路線測量設計課程Ⅱコースの講習会を受講しました。この講習は、東京での講義をWEB中継で、札幌・富山・福岡会場にリアルタイムで配信するWeb講習というものでした。当初若干不安に感じていましたが、講習資料が解りやすく出来ている事や、講師の方々の丁寧な説明もあり十分理解出来ました。

また、講習内容は主に次のとおりでした。

○Ⅰコース

Ⅰコースでは、道路工学・計画・幾可構造等道路全般について講義していただきました。道路の根本的な話が聞けて良かったと思います。また、実習も行われ、平面図を基に道路線形の検討や、縦断・横断を展開する等貴重な経験となりました。

○Ⅱコース

・土工・法面工・排水工

講習内容については、道路土工やのり面勾配の設計の基本的事項を講義していただきました。土質や岩盤の話やのり面計画時の留意点から抑止工の話まで、幅広い内容を講義して頂きました。演習として、自分でのり面の設計を行ったため、より一層理解度が増しました。

・交差点計画・設計および演習

交差点については、平面交差点設計のポイントや計画方法について講義していただきました。

演習では、A1用紙に500分の1で交差点図面を作図しました。普段はCADを利用しており、手書きで図面を作成する機会はほとんど無い自分としては、貴重な経験ができたと思います。

・道路構造物概論

擁壁・カルバート編と橋梁・トンネル編として、構造物の基礎知識を講義していただきました。擁壁・カルバート編では、基本的な知識と擁壁の安定計算方法を学び、擁壁設計の流れが把握出来る内容でした。

橋梁・トンネル編では、橋梁およびトンネルに関する一般的な知識を講義していただきました。

また、期間中には認定試験も行われました。対策という訳ではないのですが、試験は講義内容および演習の復習的な内容であったため、当然かも知れませんがきちんと講義内容を十分に理解することが重要と思います。

今後測量を行うにあたり、設計の事も知っている、今までと違った観点の物の見方になってくるのではないかと感じています。さらに、今回の路線測量設計講習を踏まえ、より良い成果を作り出して行けるよう努力して行きたいと思います。

最後に、講習を開催して頂いた日本測量協会関係者の皆様、講師の皆様方には厚く御礼申し上げます。

I コース



II コース



基準点測量 B 課程専門技術講習会を終えて

スミセキ・ジオテクノ株式会社 高橋 伸之典

私は昨年基準点コース（GPS・TS）を受講し、今年水準コースを受講修了しました。

この講習会は合宿形式をとっており、基準点コースで9日間、水準コースで5日間の日程で講義・実習・計算演習・試験を行います。

受講者の年代は20代後半～30代が多く、北海道中の同業他社から各社1～2名、総勢20名前後集まり、約半分は前年もう片方のコースを済ませた「2年生」といった感じです。

講義の内容自体は、まじめにしっかり居眠りせずに（笑）講師の先生の言う事を聞いていれば、さほど難しい事はありません。ただ、誤差配分での行列計算など、普段パソコンまかせの計算を電卓で手計算しなければならず、それには頭が痛くなりました。

実習・計算演習は班に分かれて行います。限られた日程の中なので、GPS演習の時には季節外れの雪が降ったりと大変な事もありましたが、自社に無い機械に触れたり、作業でのちょっとした小技を教え合ったり、他班と競争したりと、寒い事を除けばなかなか楽しかったです。今年の水準コースでは当社で使っているのと同じ機械での実習だった為私も機械講師を手伝いましたが、これまで疑問だった点を聞く事ができ、とても勉強になりました。

特に、計算演習の過程でどこに誤差要因が潜んでいるのか、その消去・減少法は何かなど、実務上役に立つ知識を勉強する事ができ、とても身になる講習だったと思います。正直私は今でも講習会の資料を参考にすることがあるくら

いです。

さて、これから講習会を受講しようと考えている人が一番気になるのが「合宿」についてだと思います。私も最初、同業者とはいえ全くの他人と相部屋で寝食を共にする事にやや抵抗があったのですが、いざ講習会が始まってみると、やはりそこは同じ苦勞をしてきた仲間でした。夜は誰からともなく酒を持ち寄り、仕事の話から業務上の苦勞話や笑い話に花が咲き、親睦を深め、いつのまにか苦樂を共にする仲間になっていました。

最終日の解散の時には別れがとても名残惜しく、帰りが同方向の面々とシャバのメシ（カレーラーメン）を食べに行ったくらいです。なんならもう一年参加したいくらいです。

私がこの講習会で得たものは、『技術』と『仲間』です。どちらもこれからの私の仕事上非常に重要なものであり、この講習会でなければ得られない宝だと思っています。

これから講習会を受講するみなさんは、あまり構えずに、思い切ってこの貴重な数日間を十分に楽しんでもらえたらと思います。特に若いうちに参加すれば諸先輩から得るものは計り知れないと思います。

最後に、親切丁寧に指導して頂いた高野講師はじめ講習会主催の日本測量協会関係者の皆様、また、苦樂を共にした受講者の仲間、心より厚く感謝御礼申し上げます。



